

令和2年度

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1473600888	事業の開始年月日	平成18年3月 1日
		指定年月日	平成18年3月 1日
法人名	社会福祉法人 雄飛会		
事業所名	グループホーム あいおい		
所在地	(〒246-0016) 神奈川県横浜市泉区和泉町7832-1		
サービス種別 定員等	<input type="checkbox"/> 小規模多機能型居宅介護	登録定員	名
	<input checked="" type="checkbox"/> 認知症対応型共同生活介護	通い定員	名
		宿泊定員	名
		定員計	9名
		ユニット数	1ユニット
自己評価作成日	令和2年10月26日	評価結果 市町村受理日	令和3年2月2日

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	www.aioisou.com
----------	-----------------

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

身の回りのことは自分でできる方、生活全てに介助が必要な方と、大きくレベルが違う利用者があるが、利用者9人がそれぞれを認め合い、一人一人のペースで生活できるよう支援している。看取り介護に取り組んでおり、今まで10件以上お看取りをした。家族の了承があれば葬儀にも参列している。退所された方のご家族が来荘してくれることもある。また、退所家族の紹介で新規入所に繋がったケースが3件ある。職員の定着として4/8人が10年以上の勤続である。また4人が介護福祉士の資格を取得している。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	公益社団法人かながわ福祉サービス振興会		
所在地	横浜市中区山下町23番地 日土地山下町ビル9階		
訪問調査日	令和2年11月20日	評価機関 評価決定日	令和2年12月23日

※新型コロナウイルス感染予防の為、事業所訪問をせずにオンライン調査を行っております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

【事業所の概要】 グループホームあいおいは、相鉄線いずみ野駅から徒歩7分ほどの、畑と住宅が点在している自然に恵まれた静かな環境の中にある。事業所は広い敷地に木造平屋建ての1ユニットで、今年は庭に菜園を作り、夏野菜などを栽培した。 【利用者の思いに寄り添う日々の暮らし】 3月以降のコロナ禍の中でも、「外のヘアサロンに行きたい」という利用者の思いを叶えるために、万全の感染症予防対策をして、実現に結び付けた。また、利用者の思いに寄り添うには、利用者への家族の思いも大切と考え、家族だけでは対応が難しい方を職員が法人のリフト車を運転して一緒に出向くことで、親戚が集まる新年会やお墓参りへの参加が叶った。身体拘束廃止の方針から、玄関の施錠をしないことは重要事項説明書にも明記しており、日中玄関は開錠している。そのため、猫の好きな利用者が、庭に居ついた猫の世話のため自由に玄関を出入りし、餌をあげに行ったりできる。 【看取りケアとホームでのお見送り】 ホームでの看取りを希望する家族も多く、今までに10名以上の方の看取りをしている。勤務歴の長いベテラン職員が多く、看取りの経験も豊富なため、看取りを特別なことではなく、普通の暮らしの延長にある自然なこととして受け止め、ケアに当たっている。看取り後は、他の利用者も今まで豊富な人生経験を経ていることを鑑み、ホームで職員と一緒に最後のお別れをしている。

【地域密着型サービスの外部評価項目の構成】

評価項目の領域	自己評価項目	外部評価項目
I 理念に基づく運営	1 ~ 14	1 ~ 7
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	15 ~ 22	8
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	23 ~ 35	9 ~ 13
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	36 ~ 55	14 ~ 20
V アウトカム項目	56 ~ 68	

事業所名	グループホームあいおい
ユニット名	

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の
			2, 利用者の2/3くらいの
			3, 利用者の1/3くらいの
			4, ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員と一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある
			2, 数日に1回程度ある
			3, たまにある
			4, ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と
			2, 家族の2/3くらいと
			3, 家族の1/3くらいと
			4, ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ毎日のように
			2, 数日に1回程度ある
			3, たまに
			4, ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1, 大いに増えている
			2, 少しずつ増えている
			3, あまり増えていない
			4, 全くいない
66	職員は、活き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が
			2, 職員の2/3くらいが
			3, 職員の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が
			2, 家族等の2/3くらいが
			3, 家族等の1/3くらいが
			4, ほとんどいない

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所理念を掲示し、難しい問題が起こった場合、理念に立ち返り解決に向け話し合う。	理念は人としての基本、人間の本質を謳っている。管理者は日々のケアの中で繰り返し理念の意義を考えるようにと職員に伝えている。また、理念と相反するような場面があれば、気づいてもらえるように職員に伝えている。「人と接することに正解はないし、否定しないで、まずはやってみて考えていこう」という考えのもと指導している。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会に加入し、町内の清掃活動に参加している。今年度は町内会の班長である。	泉自治会に加入し、今年度は班長として月1回の会合への出席や、偶数月に行う町内の清掃活動を担っている。利用者も一緒に参加することもある。散歩時や庭に出た時に、農作業をしている近隣の方から野菜のお裾分けがある。地域の方から介護の相談を受け、地域包括支援センターに紹介をしたこともある。コロナ禍以前にはハーモニカなどのボランティアの訪問や、町内会、地域ケアプラザの介護予防の体操教室などに参加していたが、今は中断している。今年のハロウィンにも、近くの保育園児が例年通り訪問し、玄関前でお菓子をプレゼントして交流をした。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	家族以外の面会の方には認知症のある利用者であると説明している。また、行方不明になり保護された時は認知症によるものと理解を求める。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	年6回開催し、特に地域での活動などの意見を参考にしてている。	今年の2月末に開催したが、それ以降は文書開催で参加者（家族、泉区高齢支援課職員、地域包括支援センター職員、自治会長、民生委員）に報告している。近隣に数か所グループホームがあり、度重なる運営推進会議への参加はメンバーにとって負担になることから、近くにあるグループホームと同日に時間をずらして開催している。事業所から出るゴミの処理について自治会長に相談したところ、区の環境事業局に問い合わせをすればいいと助言を受けた事例がある。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議に泉区担当者は参加メンバーである。	生活保護受給の方には、区的生活支援課と連携をして支援している。区の認知症の方を支援するSOSネットワークへ参加したり、地域包括支援センター主催の地域ケア会議に出席して地域で課題のある高齢者を連携して支援する協力関係を構築している。また、認知症サポーター養成講座を修了した3名の方のステップアップ講座を2回引き受け、食事作りや工作を利用者と一緒に行ってもらった。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関の施錠はしないことを前提とし、指導し実践している。身体拘束廃止のマニュアルを整備している。	重要事項説明書に身体拘束廃止を掲げ、日中は玄関の施錠はしていない。事業所の庭にいる猫の餌やりにより自由に玄関の出入りをする方もいる。今年度は4月に、身体拘束や虐待についてチェックシートでセルフチェックし、問題点を話し合う勉強会を行っている。毎月の会議でスピーチロックなどの話をすることもあるが、やむを得ず「ちょっと待って」と言ってしまう職員もいる。その時は、理念に沿って考えてほしいと職員に伝えている。向精神薬は往診医の方針もあり、減薬している。	毎月の職員会議や勉強会には、管理者以下全職員が参加し、身体拘束につながる事例等を話し合っています。多くの参加者による活発な意見交換の場を有効利用する為にも「身体拘束等の適正化のための対策を検討する委員会」として定めて定例化し、第三者や専門家の参加も検討されることを期待します。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	毎年勉強会で取り上げ、研修を行い、全員で注意している。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	入居者に成年後見制度をとられている方がいた。その意味を知っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居前には事前に訪問し、分かりやすい言葉を使い説明し、理解を得ている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	契約時に苦情に関する取り扱いを説明している。また面会時に申し出があった要望等はすぐさま対応するようにしている。	コロナ禍以降、家族の面会はオンラインも取り入れたが、画面が小さく見にくいとの声や、面会制限をしても訪問を希望する家族がいることから、家族に限定し、玄関で短時間、距離を取った面会を実施している。家族の心配を払拭するために、ラインでのやり取りや、電話連絡など、家族の希望に応じてきめ細やかな対応をしている。管理者は、家族と対応した際の会話の中で出る本音や、利用者への思いを記録に残し、ケアや運営に生かしている。また、家族の行事参加も多くあり、餅つきやバーベキューの準備を進んで手伝ってもらっている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎日の申し送り時などに職員からの意見等を聞き取っている。	毎月、ケアカンファレンスや勉強会を兼ねた職員会議を行っている。夜勤者以外の全員が参加しやすいように時間外勤務として法人本部の会議室で19時から開催している。会議での発言はあまりないが、個別に話しているときに意見が出やすい。今年度職員から、利用者の嚥下能力にバラつきがあり、食事形態が異なることから、各メニューごとに配膳するのではなく、利用者ごとのお盆にその方のメニューをセットして配膳したらどうかと提案があり実現した。その他にも、毎月の会議で業務改善について意見を聞いている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	日頃より相談等話しやすい環境である。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	定期的に研修が受けられるよう計画を立てている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	法人内での交換研修等を検討している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前の情報収集で、本人の意向を確認し、入居後も言動から心情を理解するように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	事前の情報収集で、家族の意向を確認している。入居後はために連絡を取り、本人が落ち着くことができるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居申し込みの際、本人、家族の状況を聞き、他のサービスが適切と思われた場合は、そちらを勧めることもある。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	調理や洗濯、買い物など出来ることを共に行い、生活することを目指している。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	行事の際は、家族が積極的に働いてくれる。家族、職員が共に利用者を支える関係ができていく。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	同法人のデイサービスに通っていた方がおり、継続して利用できたことが本人の支援につながっている。	入居前から通っていた同法人のデイサービスに、週1回顔見知り会いに行く方の送迎の支援をしていたが、コロナ禍で中断している。地域の友人や元同僚が訪れたり、知人や親せきの急な訪問も、身元の確認や家族の了解を得て、居室で歓談してもらっていた。美容院に家族同伴で出かけている。新年会や墓参りへの参加が、家族対応では難しい方は、管理者対応で法人のリフト車を用意し、参加を実現している。また、以前からの生活習慣で化粧をする方の化粧品の補充や、縫物や編み物が好きな方の材料購入のための外出支援をしている。新聞を読む方には、ホームでの新聞の購入や、読書好きな方には、図書館に本を借りに行っている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者同士がお互いを必要とする関係を築き、それを維持できるように支援している。リビングの席を同じにして一緒に作業ができるようにしている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	同法人特養に入所した場合はフォロー継続している。退所後も行事に参加してくれる家族もあり、相談等も受け付けている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	今までの生活歴を把握したうえで、本人の言動から意向を推測し、支援に努めている。	言葉が出にくい方や、意思の疎通が困難な方も表情の変化で思いや意向を把握している。シャワーチェアが濡れているのを見て不快な表情をした方の思いを汲み取り、一番初めに入ってもらったり、入る前に丁寧に拭いて対応した。また、ホームに来る理美容師ではなく、外のヘアサロンに行きたいという利用者の思いを感染症対策を施し、実現した事例がある。日々の生活の中で利用者がふと漏らした言葉や思いはケース記録に記載し、必要なことはセンター方式のアセスメント用紙に書き入れ、介護計画に取り入れている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	事前の面接時に今までの経緯を詳しく聞きとるようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日常の変化に気づき、ケース記録し、それにより職員全員が現状の把握が出来る。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	状態の変化が見られた時は、随時ケース会議で検討する。医師、看護師からの助言も反映される。また家族面談を繰り返すことによって、新たな情報が出てくることがある。	新規入居時は、家族からの情報や生活歴などをセンター方式でアセスメントして、暫定的な介護計画を作成している。その後は様子を見ながら、1か月後、2か月後、3か月後に見直しをしている。通常は短期目標6か月、長期目標1年で見直している。家族の意見や要望は更新時に前回の介護計画と今回の分を比較し、利用者の状態変化や医療面の説明などと合わせて把握している。家族から、「今もこういうことができるんですね」などの本人の身体状況に関する感想が出ることもある。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケース記録や「連絡ノート」に書かれたケアの提案で情報の共有ができる。またケース会議にて見直しを行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	同法人特養のデイサービスに参加できる。認知症進行により家族だけでの受診が困難な場合は、職員の付き添いも可能である。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	自治会に加入しており、回覧板のお知らせから入居者ができるものを選び、体操教室やフラワーアレンジメントなどに参加することができる。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	2週に1度の往診がある。24h対応となっている。また歯科往診により年に1度の歯科検診が受けられる。	入居者全員が協力医（内科医）の往診を受けている。協力医が以前在籍していた総合病院も法人の本部前にある為、必要な相談などしやすい環境が整っている。協力医は急変などにも24時間オンコールで対応してくれる。法人の看護師も週1回利用者の健康チェックに来る他、急変時の対応、相談事などに応じてくれる。協力歯科は年1回の定期検診に加え、必要な治療に週1回訪問している。持病で定期受診が必要な方は家族対応で通院しているが、急な受診は職員が同行している。かかりつけ薬局が薬の一包化をして服薬管理をしている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	同法人特養の看護師が毎週訪問している。相談報告し、必要があれば受診する。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院の際は職員が付き添い、サマリーにて情報提供を行う。また往診医から協力病院への紹介もある。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	事前にターミナルケアの方針、理念を説明し、実際に取り組んだ事例を話している。その際本人、家族の意向を確認している。	入居時に家族に「急変時対応希望書」で、急変時や延命治療についての希望を聞いている。看取りの希望は終末期にかかる段階で家族に意思確認をし、医師が状況を説明して同意を受け、看取り介護計画を作成している。家族には無理のない範囲で一緒に利用者にかかわってもらったり、最期に立ち会ってもらっている。他の入居者も職員と一緒にホームでお見送りをしている。看取りの経験が豊富なベテランの職員が多く、ターミナルケアもいつもの生活の延長線上と捉えている。開所以来10名以上の看取りの経験をしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	職員は救急法の講習を受け、普通救命講習を修了している。勉強会にて実物のAEDを使用期限を過ぎた電極パッドを使って作動させてみる。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の火災の想定した避難訓練を実施する。上半期は消防署立会いの下行う。本部に災害時の受け入れ態勢がある。	今年度は10月に日中を想定した避難訓練をしている。年明けには、夜間想定総合訓練を予定している。事業所が木造建築のため、大規模災害時は同法人の特別養護老人ホーム「相生荘」に避難することになっている。備蓄や備品はリストとともに備えているがリスト化されていないものもある。コロナ禍以前の避難訓練では、隣家の方が避難した利用者の見守り役で協力してくれている。玄関にAEDを設置している。	非常災害時に「相生荘」に避難するための避難経路や移動時間の確認など法人内の協力体制も含め、災害時の対応手順を再確認することを期待します。また、備品リストを再確認し、カセットコンロ、簡易トイレなど必要な備品の備えを提案します。地域の防災訓練への参加など、非常災害時の地域との協力関係強化を期待します。
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	本人が気にしていることは、他者に聞こえない声掛けに配慮している。またあえて声掛けしないということも対応の一つである。	利用者の羞恥心や人格に配慮し、トイレ誘導時には周りに気づかれないように声かけしている。また、かつら利用の方の、かつらがズレている時には耳元でそっと伝えるようにしている。接遇研修で声かけ方法を事例に挙げ、職員が共有している。名前は基本苗字にさん付けで呼んでいるが、入居の際に家族に聞いたり、本人の好みを把握して、その方に応じた呼び方をしている。救急車対応などの場合は、医療保険証などを含む緊急時の持ち出しリストを作成して金庫などで保管している。パソコンはパスワード管理をして使用者を限定している。個人情報を含む書類は事務所内の書庫で施錠管理している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	理解力に合わせた声掛けをする。また買い物の希望があれば同行し、好きなものを買えるよう支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入浴の順番、食事の時間は本人の状態、意向に添って変更している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人の好みを把握したうえで、季節、気候に合った衣類の選択を支援する。また化粧品がなくなるように補充する。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	調理、片付けは利用者と一緒に行い、食事でも会話をしながら楽しんでいる。	毎日の献立作成から食材購入、調理までを職員が担っている。食材は業者から1週間ごとに届く分以外に近隣のスーパーに毎日買い物に行き揃えている。コロナ禍以前は利用者も一緒に行っていた。毎日の食事作りは手がかかるが、利用者の残存能力の活用や生活リハビリのためにも欠かせない事と位置付けて、利用者も当たり前の日常生活の一部として、できることを手伝っている。また、職員も手作りにこだわりがあり、「食」を大切に考えている。調理を通して、もうお昼だという意識や五感を刺激する効果もある。利用者の誕生日には、コロナ禍以前は外食に行くこともあったが、今は寿司の出前を取ったり、ケーキを用意して祝っている。正月はおせちとホームでついたお餅を提供して祝っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	必要な方には水分、摂食量の記録を付けている。辛い物が苦手な方には別で作り、箸が使えない方にはスプーン、フォークで提供している。ミキサー食まで対応できる。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	それぞれに応じた口腔ケアを実施している。歯科往診医の助言も反映している。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	介助する回数を減らすために吸収量の多い紙パンツを使う。常時ポータブルトイレ設置居室レイアウトを工夫することによって転倒しないようする。	9名のうち5名の方は介助や誘導が必要である。うち2名の方は居室に常時ポータブルトイレを置いているが、日中は全員がトイレで排泄している。4名の方は完全に自立で排泄ができている。入居前はリハビリパンツなどを使用していた方が入居後、排泄チェック表などを基にタイミングを見きわめ、誘導することで、布パンツに改善している。夜間は睡眠を優先してパットを厚めにするなどの工夫をしている。トイレは毎日2回、職員が清掃して清潔の保持に努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	飲水量、食事量のチェックや排便に良い食べ物（バナナ、ヨーグルト）を提供している。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	週2回を基本とするが、希望があればいつでも入れるようにしている。状態によりリフト浴も可能である。	週2回、午前から午後まで1日かけて全員入浴をしている。自立で入浴できる方が希望される場合に限りに、リスクを説明の上、家族の同意が得られれば、夜間の入浴にも対応している。機械浴を備えており、重度の方も浴槽に浸かっている。湯は午前、午後で入れ替え、かけ流しにしている。5月の菖蒲湯や、冬には庭で採れる柚子のお風呂を度々楽しんでいる。入浴剤の希望や、固形石鹸を好む方にも対応している。浴室内や脱衣場はエアコンを設置してヒートショック対策をしている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	いつでも居室に帰れるようにしている。安眠の支障にならないように間接照明を設置している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の説明書をファイリングし、変更があればわかるようにケースに記録し、しばらくの間観察強化する。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者が歌える曲を選び、歌うことを楽しめるようにしている。また、塗り絵などでもできるように置いてある。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	玄関を施錠せず、一人での外出もできるようにしている。食材の買い物は日課である。	コロナ禍以前は法人の車で食事や初詣などに出かけていた。毎日の食材や日用品の買い出しに職員と一緒にいたり、手芸用品などの欲しいものを買いに個別対応で車で出かけていた。夏の恒例になっている「相生荘」の夏祭りも今年は中止になっている。現在は家族との外食や正月の帰宅も難しい状況である。そういう状況でも外に出る機会を作るため、近くの公園までの散歩や庭の菜園で収穫や外気浴をしている。事業所の庭に居ついた猫に自ら餌をやり庭に度々出る方がいる。つい最近、ホームに来る理美容師ではなく、外の理美容院を希望する利用者の要望に応え、感染症対策を万全にして対応した。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金を持つことは制限していない。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があれば本人が自室で電話できるように支援している。ケイタイ電話を持つ事は制限していない。また、手紙をポストに入れることを手伝う。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	毎月、その季節の絵を描いたカレンダーを作っている。玄関ドアにはチャイムではなく、ウインドベルを設置している。	日常清掃は職員とできる範囲で利用者も一緒に行っている。リビングは日中、感染症対策に加湿付きの空気清浄機3台を設置し、常時換気のためにとこるところの窓を開け、空気の流れを作っている。昼間リビングで過ごしている方の居室の窓も換気のために開けている。リビング中央の5人掛けの大きな丸テーブルや、一人で過ごすことが好きな方用の小テーブル、ゆったりくつろげるソファが置かれている。見学者や家族が見やすいように行事の写真を玄関に掲示している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングの席やソファ等それぞれの定位置があり、一緒に歌ったりTVを見たりできる。また他の利用者から離れたいときは台所のテーブルに席がある。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	今まで使用していた仏壇、コタツ、たんすなどの家具を持ち込んでもらい、自宅に近い環境ができるようにしている。飾りなど物を置かないことも一つの対応である。	居室にはエアコン、照明、クローゼットが備え付けられている。ベッドや防災カーテンは利用者が持ち込んでいる。利用者は使い慣れた馴染みの家具やテレビ、こたつや仏壇などを置き、居心地の良い部屋にしている。食事時間だけはリビングに出てと伝えている以外は、利用者は自由に好きな場所で思い思いの時間を過ごしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室やトイレを間違わないよう札をつけ声かけし、習慣付けている。またトイレの自動照明は「自動で消えます」と書いてある。		

目標達成計画

事業所名

グループホームあいおい

作成日

令和3年1月29日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた、具体的な取組み内容	目標達成に要する期間
1	6	身体拘束廃止のために第三者や専門家が検討会議に参加することが望まれる。	職員以外にも意見を求められる機会を定める。	運営推進会議に「身体拘束等の適正化のための対策を検討する委員会」を定め出席者に意見を求める。	次回、運営推進委員会から実施する
2	35	災害時の対応手順を再確認すること。	現在ある非常災害時マニュアルの点検をする	①本部和生荘までの避難経路を実際に歩き時間や危険個所を確認する。②備品にカセットコンロ、簡易トイレを追加する。③地域の防災活動に参加し協力関係を築く。	今年度中
3					
4					

注) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。